

製品名: Hck (リン酸化 Tyr410) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04758**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | HCK |
| 別名 | HCK; Tyrosine-protein kinase HCK; Hematopoietic cell kinase; Hemopoietic cell kinase; p59-HCK/p60-HCK; p59Hck; p61Hck |
| 遺伝子 ID | 3055.0 |
| SwissProt ID | P08631 |
| 免疫原 | 抗血清は、ヒト HCK 由来の Tyr410 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 381-430 |

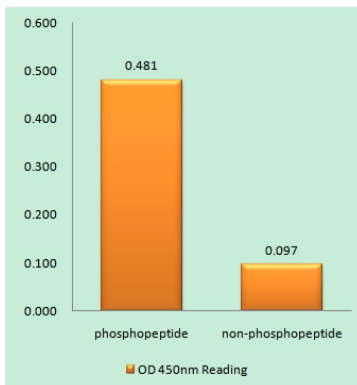
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、チロシンキナーゼの Src ファミリーのメンバーです。このタンパク質は主に造血に関与し、特に骨髄系および B リンパ系細胞において顕著です。Fc 受容体と呼吸バーストの活性化を結びつける役割を担っていると考えられます。さらに、好中球の遊走および好中球の脱顆粒にも関与している可能性があります。選択的スプライシングと、非 AUG (CUG) コドンを含む代替翻訳開始コドンの使用により、細胞内分布の異なる複数のアイソフォームが生成されます。[RefSeq 提供、2010年2月],触媒活性: $ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸$ 。 ,ドメイン: SH3 ドメインは HIV-1 Nef への結合を媒介します。 ,機能: Fc 受容体と呼吸バーストの活性化を結びつけるシグナル伝達経路の一部として機能する可能性があります。好中球の遊走にも寄与し、好中球の脱顆粒過程を制御する可能性もある。 ,PTM: アイソフォーム p59-HCK は、3 番目の位置に N-ミリスチルグリシンを含む (類似性による)。アイソフォーム p59-HCK は、3 番目の位置に S-パルミトイルシステインを含む。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属し、Tyr タンパク質キナーゼファミリー、SRC サブファミリーに属する。 ,類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。 ,類似性: 1つの SH2 ドメインを含む。 ,類似性: 1つの SH3 ドメインを含む。 ,サブユニット: HIV-1 Nef および Vif と (SH3 ドメインを介して) 相互作用する可能性がある。この相互作用は、チロシンキナーゼ活性を刺激すると考えられる。 HEV ORF3 タンパク質と (SH3 ドメインを介して) 相互作用する。 ,組織特異性:主に骨髄系および B リンパ系細胞で発現する。 ,

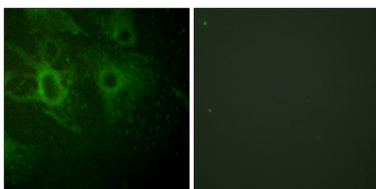
研究分野

ケモカイン;Fc ガンマ R を介した貪食作用;

画像データ



HCK (リン酸化 Tyr410) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



HCK (リン酸化 Tyr410) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。